

イグアス移住地

Yguazú



イグアスってどんな場所？

パラグアイ最後の日系移住地

イグアス移住地は1961年に入植を開始した、パラグアイ最後の移住地です。イグアス移住地は日系人のみならず、ブラジル系、スイス系、ドイツ系なども入植した多国籍な移住地となっています。基幹作物は大豆で冬作には小麦やトウモロコシの栽培しています。また牧畜や、1991年に発足した日系全パマカダミアナッツ研究協議会を中心に、マカダミアナッツの導入も行われています。

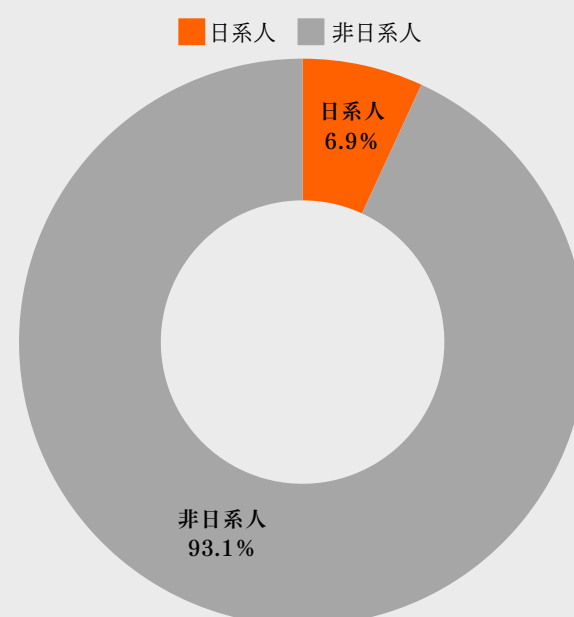
 パラグアイにもある『道の駅』

2024年7月5日、イグアス移住地の国道2号線沿いに道の駅がオープンしました。道の駅ではイグアス移住地で採れた野菜やマカダミアナッツ、地元で作られたジャム、先住民が作成した品物などイグアスらしさ満載の施設となっています。パラグアイ料理の他、焼きそばなどの日本食を楽しむレストランも併設されており「憩いの場」を提供する道の駅となっています。

人口

イグアス市：
約11,500人
日系人：約850人

※2024年10月時点



イグアス日本人会



イグアス日本人会は、イグアス運営協議会やイグアス自治体から名称を変更し、1978年からイグアス日本人会として活動しています。日本人会では日本人会事務局に加え、イグアス日本語学校、各種グラウンド、診療所、薬局（診療所内）、ピクポ公園、採石場、霊園、文化交流センターなどの施設を運営管理しています。

社団法人 イグアス日本人会

[所在地] Distrito de Yguazu km 41, Dpto. Alto Parana, Paraguay

[電話番号] (+595) 632-2-243

[E-mail] nikkaigygy@hotmail.com



イグアス日本語学校は小学校、中学校が同敷地内にあり、幼稚園は別の敷地にあります。生徒数は小中学校が約120人、幼稚園が約30人で非日系人の生徒も通っています。



日系人が眠る墓地内には、慰霊碑も設置されています。

イグアス診療所・薬局



イグアス移住地にある診療所は1961年に設立され、日本語での対応が可能な日系人医師を中心に現地の医師が勤務しています。診療科は内科、外科、小児科、整形外科、婦人科、歯科、皮膚科があり、入院室も有しています。

イグアスの滝



イグアス移住地はイグアスの滝まで車で約1時間半、パラグアイ第二の都市であるエステ市まで車で約30分とアクセスが良い場所です。



イグアス農業協同組合

イグアス移住地の主な事業は大型機械農業による大豆及び小麦栽培です。1998年11月に、製粉工場が稼働開始し、そこから出るフスマを利用して家畜用の配合飼料も生産しています。一方で、イグアス農業協同組合では、様々な形で積極的に地域への協力及び問題解決に取り組み、1995年には「イグアス地域復興協会」を設立し、地域発展を目的とした小農支援事業を行っています。



イグアス農業協同組合の敷地内には「パラグアイの不耕起栽培はこの地から広まった」と記された石碑が設置されています。パラグアイを豊かな穀倉地帯とした農業技術は不耕起栽培であり、大豆・小麦を生産する日系農家には欠かせない技術となっています。

イグアス農業協同組合スーパーマーケット

イグアス農業協同組合が経営するスーパーマーケットです。ここでは日本のインスタント食品やラーメンが手に入ります。また日系人手作りの「あんぱん」もあります。さらに、パラグアイは内陸国ですが、ここでは海外から取り寄せた海の魚介類が販売されています。



イグアス移住地の日系社会についてさらに詳しく知りたい方は要チェック！！

<https://x.gd/kfYDp>